

4

1. 2. 3. 4. 5.  
こヨ主見し  
こせみよず  
ろづやけ  
みダか地<sub>ち</sub>き  
のびらのこ  
世<sub>よ</sub>デ火のこ  
にののうろ  
あごふを  
れととも  
ばききはて

た主<sub>ま</sub>なた待  
えにやだち  
しえみめの  
のらをぐぞ  
びば耐<sub>た</sub>みみ  
つれえをし  
づしぬのの  
けもきぞち  
んのぬみは

くひくた  
るさるえと  
しししえ  
みきみのが  
のまのびた  
夜<sub>よ</sub>な夜つき  
明<sub>あ</sub>び去<sub>さ</sub>つし  
けのりはふ  
なとなるく  
ぎばのの

なたき芽<sub>め</sub>お  
がえぼと  
主しうえず  
のののれ  
もびあとを  
とつさき知  
にづにをる  
あけ覚<sub>さ</sub>まら  
ぬめん<sub>ん</sub>つん

わたしの犠牲の最後の一滴が地に落ちつつある。わたしが世を去るべき時は近づいた。わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、信仰を守りとおした。「英欽定訳」今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろう。わたしばかりでなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下

6

よき  
予期せざりしこと  
のぞ  
望まざることをも  
あた  
主は与えたまえど  
ただ主を待ち望まん。

7

とお み  
いかに遠く見ゆとも  
ことば と  
み言葉は遂げられん  
さ のち  
遠き日の去りし後  
の はな さ  
野の花の咲くごと。

8

よ  
待ち望みの夜はなお  
おも  
重くひろがるとも  
よろこ ゆうき  
喜びと勇氣もて  
め あ め ざ  
目当てをば目指さん。

9

きよ くる  
清めの苦しみ去り  
みいだ  
なれもまた見出さん  
にすがた  
主の似姿のなれに  
つく  
創られしことをば。

10

また やす  
全き安らぎをもて  
つづ  
待ちわび続けばや。  
な な  
待ち望みは名の無き  
たまもの  
神の賜物なり。